

# OPPAI

π事情展

ART  
LAB.

展示会レポート  
Exhibition Report

2013

in 禅居庵

開催 2013年7月17日(水)～7月21日(日)

会場 臨済宗建仁寺塔頭 禅居庵

## OPPAI ART LAB. $\pi r$ 事情展 2013 in 禅居庵 開催報告

乳房文化研究会は乳房を中心に、女性の「からだ」と「こころ」をとりまく医学的・生物学的な研究と、社会や文化の問題を広く学際的に科学することを目的に1991年に設立されました。また、10周年、15周年という節目には「OPPAI ART LAB.」と題する乳房をテーマとしたアート展などを開催してきました。

設立から約20年が経ち、2001年の第1回「OPPAI ART LAB.  $\pi r$ 事情展」から12年の歳月が流れ、急速な社会の変貌や科学技術の進歩、生活スタイルの変化が起きました。そういったことを背景に、新たなOPPAI・乳房をテーマにした芸術作品を第1回アート展に参加いただいた作家の方々を中心公募したところ、100点を超える作品の応募をいただきました。その中の素晴らしい作品の数々を古都京都を代表する禅寺「建仁寺」の塔頭「禅居庵」をお借りして展示しました。連日、開館から閉館まで来場者が途切れることなく、想定をはるかに上回る2,200名以上の方に来場をいただき、熱気あふれる会を開催することができました。展示会の盛況ぶりと「乳房」「OPPAI」をテーマにした作品の多様さを報告いたします。

### 「OPPAI ART LAB. $\pi r$ 事情展」とは

2001年、乳房表象化の活動を通じて、「乳房」を社会的・文化的なコンテクストの中に位置づける新しい研究領域の創造を目的に、第1回アート展を開催しました。情報の発信と交換というインタラクティブな“場”で、「乳房」をアートするという実験的な試みを通して、より大きなコミュニケーションの輪に広げられることを願い、「 $\pi r^2$ （事情）=円の面積」から「OPPAI ART LAB.  $\pi r$ 事情展」と名づけました。

### 会場・禅居庵について

今回、「OPPAI ART LAB.」を企画する中で、古都京都を代表する「寺院」と「OPPAI・乳房」の融合というユニークなアイデアが生まれました。そこで、いくつかの寺院に相談したところ、禅居庵様にご厚意をいただき、「お寺」×「OPPAI ART」というコラボレーションが実現できました。



### 開催概要

- 日 程: 2013年7月17日(水)～21日(日)の5日間
- 場 所: 臨済宗建仁寺塔頭 禅居庵 京都市東山区大和大路通四条下る
- 主 催: 乳房文化研究会
- 協 賛: 株式会社ワコール
- 来場者数: 2,259名 (作品リスト配布数)

### ①公募アート展 (展示作品総数: 111点)

下記の方々に「OPPAI・乳房」をテーマにした作品の募集をしました。

- ・2001年開催の第1回アート展に出品された作家180名
- ・乳房文化研究会会員、株式会社ワコール従業員およびOB
- ・近畿地区の美術系学科のある高校、専門学校、短大、大学

### ②特別イベント

出品作品のうち、次の2作品についてパフォーマンス(実演)をしていただきました。

- パフォーマンス1 「Bosom 2001 → 2013」 栗原一恵子
- パフォーマンス2 「ユカイナおっぱい」 池上正秋

### ③同時開催イベント

「高城修三 連歌会」 7月20日(土) 開催

2013年1月の定例研究会「文学作品に見る乳房」で講師をしていただいた第78回芥川賞受賞作家である高城修三先生が主催されている「連歌会」を、禅居庵で同時開催しました。「乳房」を織り込んだ発句からユニークで素晴らしい連歌が完成しました。



## 開催風景



## 特別イベント

パフォーマンス1 「Bosom 2001 → 2013」 torso\*栗棟 一恵子



作家自身の身体を作品として展示。長い時間の営みを紡ぐ場所「禅居庵」に有機体としての身体を置き、他の作品や来場者の中に溶け込み一体となって静かな停まることのない生命体を表現されました。

7月17日（水）、20日（土）、21日（日）の3日間／13時より1時間毎に約20分間実演

パフォーマンス2 「ユカイナおっぱい」池上 正秋



木製オカリナ（笛）の「ユカイナおっぱい」を長野県在住の作家とその友人の方が来場され、3日間、約10回演奏いただきました。演奏曲は「かえるの合唱」「女ひとり」「竹田の子守唄」「サリーガーデン」「さんぽ」「アメイジンググレイス」「星の世界」「ふるさと」など。澄んだ音色の懐かしい曲が会場に流れ、来場者の心をとらえました。

7月19日（金）、20日（土）、21日（日）の3日間／13時より1時間毎に約15分間演奏

## 同時開催イベント

「高城修三 連歌会」7月20日（土）



平成二十五年七月二十日

半歌仙「いのししも」の巻 於 建仁寺禪居庵

表

発句 いのししもち吸いたしや夏の寺（晴一）

脇 のみどの海に愛満ちる時（真理子）

第三 桐一葉大地へゆると散り行きて（純子）

四句 初霜踏んであづま人来る（建夫）

五句 怨霊の出處もなし望の月（登志子）

六句 九尾のきつねひまと余す（莞爾）

裏

初句 日の本の信太の杜につる恋（善帆）

二句 ゆくえ定めぬ明日に紅ひく（貴代美）

三句 船渡御の君の勇姿に惚れぬいて（清實）

四句 いずれも同じミーちゃんハーチャン（正雄）

五句 死ね殺せ行きつく果ての灰ヶ峰（修三）

六句 小石が三つただそこにある（朝子）

七句 見上ぐれば世界遺産に冬の月（浩）

八句 欧亜のはざまどこかなつかし（山田順子）

九句 ミツコ説くEU理念と香水と（建夫）

十句 耳痛きこと通りすぎ行く（雄三）

十一句 我わすれまず酒飲んで花吹雪（重彦）

挙句 祇園そぞろに春の夕暮れ（満里子）

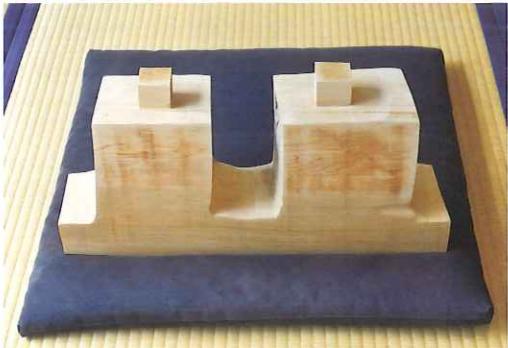
句上 北山晴一（客・1） 藤本真理子（1） 嶋岡純子（1） 村上建夫（2） 高木登志子（1） 黒住莞爾（1） 小林善帆（1）  
城貴代美（1） 今枝清實（1） 飛田正雄（1） 高城修三（1） 後藤朝子（1） 府川浩（1） 山田順子（1） 田中雄三（1）  
本郷重彦（1） 奥山満里子（1）

石井順子 石井智子 上羽利枝 河田光博 岸本泰蔵 小堀由紀江 杉田繁治 田中友子 中條晴之 中山康子 松田弘子 山本昌子

今回の連歌会はワコールの乳房文化研究会との協賛により京都祇園の建仁寺禪居庵にて行われました。「OPPAI ART展」の開催された禅堂で、奇抜で奔放なおっぱい芸術と坪庭を間に向き合った座敷にての連歌となりました。北山晴一先生の発句は禅居庵の摩利支天堂を守護する猪と当日開催されていたOPPAI ART展を重ねた素晴らしい発句でした。これを発火点にして多彩な人々の思いがけない出会いから面白い半歌仙が仕上がりました。

## 入賞作品

### 【優秀賞】



作品No.017 四角いオッパイ

たまるまちこ(京都府)

▼審査員コメント  
木の持っている素材の美しさと、  
その特性そして暖かさ……  
四角いんです私たち……思わず触っていました。

作品No.084 溫存

小澤和枝(神奈川県)

▼審査員コメント  
ご自身の乳がん罹患と乳房温存手術、辛い治療の体験から、乳がん検診を呼びかける作品。  
医学者による審査票と、作者と同じ体験を基にアート活動と啓蒙活動を展開する審査員からの票を得て、乳がんと罹患者への理解の啓蒙の希望も込めて優秀賞に選ばれました。  
※特記：袴田宏基さんの作品No.037「6個のはずが…」も、今回は残念ながら選外となりましたが、乳房を喪失した女性への（男性からの）優しい社会的視点を提唱された点を称えたいと思います。



作品No.090 Vitamin 愛

水井亜紀(大阪府)

▼審査員コメント  
乳房とは何か、誰のものか、改めて考えさせてくれた作品である。おっぱいに懐らい付く子豚の表情が何ともかわいらしいし、まさに愛らしい。乳汁にはたくさんの栄養やビタミンも含まれているが、ビタミン（愛）もたっぷりと含まれており、それで子が育つという母乳保育の本質を表した作品と言えよう。



作品No.093 然くんと茅くんの産着猿

つるきみ(兵庫県)

▼審査員コメント  
シンプルで奥深く、生々しくも遙かな記憶の力を形象化した作品です。産着に染み込んだお乳のにおいが私たちを昔日の楽園へと誘い込み、虜にします。切ないです。  
お母さん、この作品を機に乳離れできますね。



7月16日、乳房文化研究会運営委員を中心とした7名の審査員で入賞審査を実施しました。アート的に優れた作品、コンセプトが素晴らしい作品が多数あり、審査は難航しました。当初、最優秀賞1点、優秀賞2点を用意していましたが、「OPPAI・乳房」に対するさまざまな切り口があり、ひとつに絞り込むことができませんでした。そこで、アート作品としての完成度とともに、「OPPAI・乳房」に対する捉え方や作品を通して表現されている思いを作品コンセプトと照らし合わせながら審査し、優秀賞4点、審査員特別賞6点、協賛特別賞1点を選出しました。

また、書類審査の段階で、今回のアート展を記念する記念品（おっぱい型の箸置き）のアイデアをいただいた作品にART記念品賞を進呈しました。

### 【審査員特別賞】



作品No.006 おっぱいの力

山口朝子(京都府)

▼審査員コメント  
ほのぼのと可愛くあたかい。  
四角い座布団の方丈の世界を満たす小さな命と大きな愛のコラボレーション。  
なによりも赤ちゃんのまるやかな「おてて」と夢見心地の表情がみんなを幸せにしてくれます。おっぱいはよろこびとやすらぎを届けてくれる力です。



作品No.026 輝く細胞

内倉ひとみ(栃木県)

▼審査員コメント  
つぎつぎと増えていく細胞を身体内部からながめているようです。  
ひとつひとつは透明で軽やかにはみえるけど、いくつもが集まることでお互いが輝きあって、現実にはありえない不思議だけれど心地よい質感が見えてきました。際立つちからを感じます。



作品No.031 ゆくえ2013—女神摩利支天

Hanako Kumazawa(熊澤華子)(長野県)

▼審査員コメント  
空を真直ぐに飛翔する猪、  
全てを受け止め未来に導く女神……  
この展覧会会場ならではの作品が感動を与えてくれました。



作品No.068 おばあちゃんのぺったんこおっぱい

常田浩二(長野県)

▼審査員コメント  
はち切れんばかりの成熟期、蕾の様な思春期の乳房に続くスパイラルの上端には、ブーメランのように活き活きと奔放にこちらに飛び出してくれる乳腺もクーパー靭帯も変化したぺったんこなおっぱい！ 介護して見送った作者に命を繋げてくれたおばあちゃんの人生と、女性の老化の表象が「美」としておおらかに敬意を込めて愛情深く表現されています。

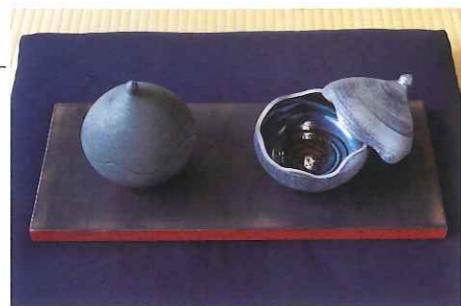
### 【審査員特別賞】



作品No.079 あいから  
青木紅瑠美(大阪府)

▼審査員コメント  
大きな房と小さな房がたっぷりとした寝みを描いてつながっています。俯瞰図だけでなく乳首や乳輪の細部もしっかりと再現、また、二つの乳房の内部に広がる空間には謎めいた花も咲いています。手元において毎日触れたい作品です。

作品No.107 中に入っているもの何かなあ～  
木村幸恵(宮崎県) 出品者:友人 清水口洋子



▼審査員コメント  
完成度の高い、自分の手元に欲しくなる一品である。中に入っているもの、なにかなあ、と乳首をそっと掘ると、ワクワク、ドキドキすること疑いない。落ち着いた色の蓋を取れば、中は和菓子か、ポンポンか……、それとも母の愛情か……。

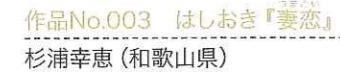
### 【協賛特別賞(ワコール特別賞)】



作品No.057 ふくらと  
鈴木伊美(神奈川県)

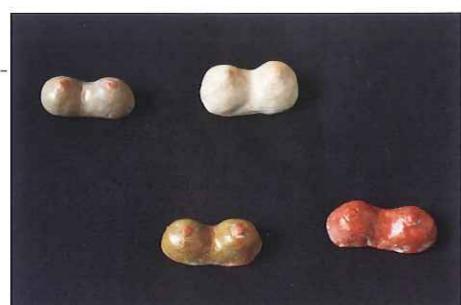
▼審査員コメント  
女性の持つ豊かな曲線美をガラスに内包させ、やさしくやわらかなふくらみを表現している本作品は、ワコールの考える女性美の原点を表現しているとも捉えられます。  
ガラスという素材を使った完成度の高い作品です。

### 【ART記念品賞】



杉浦幸恵(和歌山県)

▼審査員コメント  
食卓からふくらむと浮かんだ様なイメージで楽しめていただきました。



#### ■記念品

OPPAI ART LAB.の開催を記念してオッパイの形をした箸置きを製作し、出品作家や関係者に進呈しました。また、会場で販売もしました。

作家・杉浦幸恵さんが出品された作品を原案に製作しました。製作は京焼清水焼窯元・松斎陶苑様にご協力いただきました。

乳がんの早期発見活動(ピンクリボン活動)を行っている「日本対がん協会」へ記念品とピンクリボンバッジの売上の一部を寄付しました。



### 表彰式&懇親会

7月21日(日) 於 アカガネリゾート京都東山1925

最終日の7月21日(日)夕方に、出品作家と乳房文化研究会運営委員および関係者、約60名が参加して、表彰式&懇親会を開催しました。



表彰式



栗棟一恵子さんのパフォーマンス

「ゆかいなオッパイ」を演奏する加納さん(左)と池上さん(右)



#### 【田代会長のあいさつ】

禅居庵は建仁寺の南の端だし、祇園祭の最もでるけれども、ここまで足を延ばしてくれるだろうかと心配しており、5日前の記者会見のときには500名程度と言っていたのが、すでに2,200名以上の方が来場され、芸術の力って強いんだなと改めて感じました。作家の方々のご出品のおかげで、この会を本当に華やかに開催することができ、乳房文化研究会も20年というひとつの大きな節目を立派に超えることができました。本当に皆様方のお力のおかげだと思います。心から御礼申し上げます。ありがとうございました。



#### 【本郷実行委員長の総評】

運営委員の先生方にご足労を願いまして、審査をさせていただきました。実は、全員が違う方向を見ていますが、まとまった結果は出ませんでした。当然です。それぞれの審査員に感想を聞くと、さまざまな心温まる意見をいただきました。そういう中で最優秀賞を決めるのはとても無理だということで、優秀賞を2点増やしてようやく結審いただきました。

今回の作品は第1回目の作品展と違い、このような座禅を組む座布団の上での展示です。俗の世界からほんの少し上の段で発表された作品です。それをいかに大事にしているかという点に重きを置いて、作品を選ばせていただきました。

乳房文化研究会では、乳房をキーワードに多岐にわたるテーマを取り上げ、様々な問題について情報交換・探求を行い、研究活動を展開しています。

通常、年3回(6月・10月・1月)研究会を開催しており、一般の方でも参加いただけますが、会員の方には、以下の特典があります。

●  
研究会の開催案内を定期的にお届けします。

● ●  
会報誌を年3回お届けします。

● ● ●  
1年間の研究会の内容を収録した講演録を年1回お届けします。

会員登録には年会費3000円が必要です。

入会をご希望の方は、下記事務局へ  
住所・氏名・メールアドレスをご記入のうえ、メール・FAX・郵送などで、  
入会手続き資料をご請求ください。

乳房文化研究会 事務局  
〒601-8530 京都市南区吉祥院中島町29 株式会社ワコール内  
TEL: 075-682-1178/FAX: 075-682-1037  
E-mail: nyu-bun@wacoal.co.jp  
<http://www.wacoal.jp/c/nyubou-bunka/index.html>

Breast Res. Assoc.  
乳房文化研究会